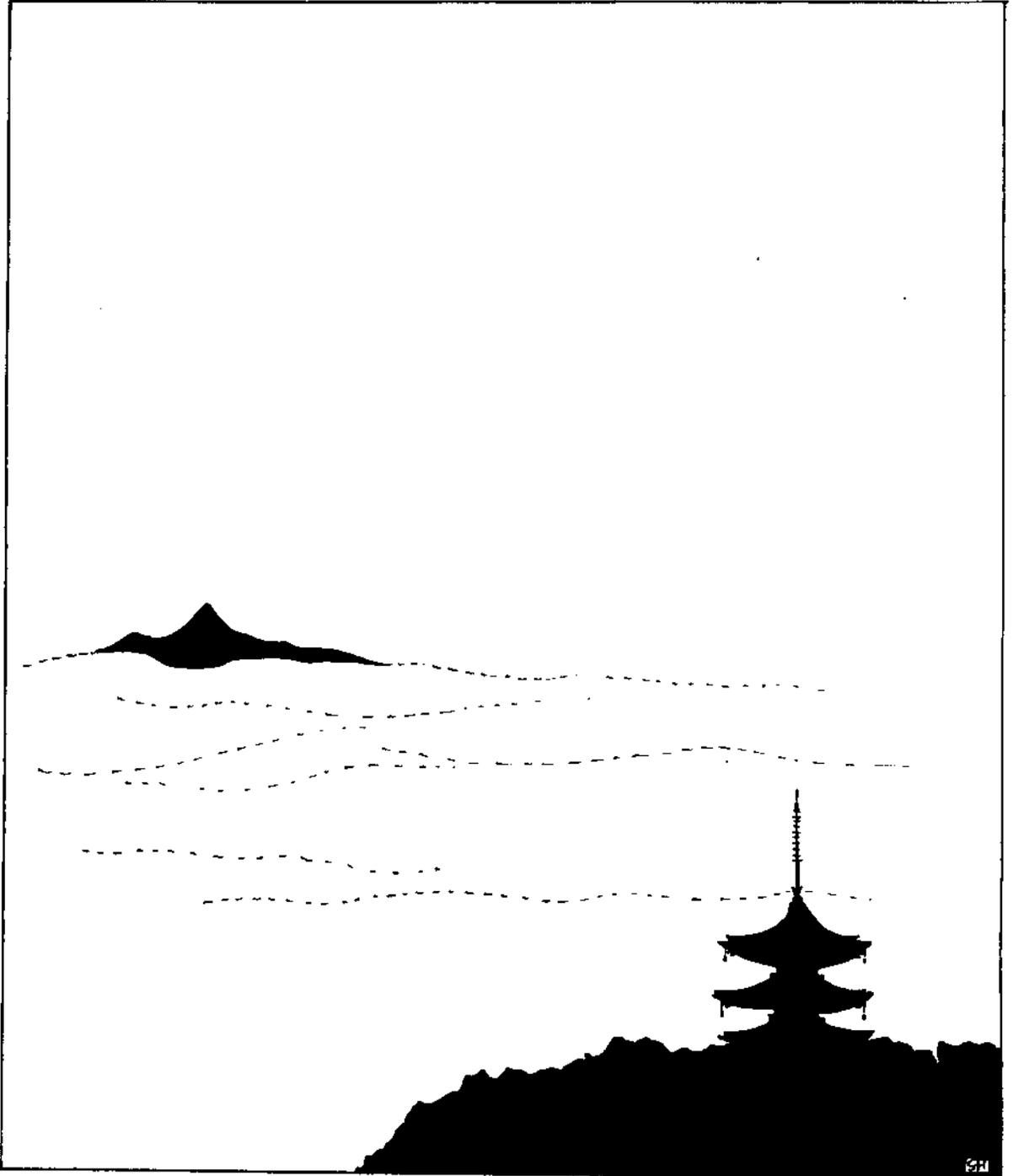


鳳翻



卷 頭 言

あの山頂に立って、私はただ振り返ること
を辱われた一つの動物のように、前に向かっ
て力いっほい踏張っていたい。よろめく私を
支えるものは私以外にないことを知っている
筈の私ではなかつたか。遠く続く、確かにこ
の足許から続く純白の山なみや雪原に、私の
未来の起伏を感じよう。それは私にとって、
今を遅らせればもう再び訪れることのない孤
独な洗礼である。

串 田 孫 一

目次

● 巻頭言	1	● 座談会「OBを語る」	15
● OB 公報発刊にあたって	会長 堺原 直毅 3	● 五十一年度OB会会計報告	事務局 24
● お正月	米沢 和彦 4	● OB住所録	25
● 卒部生諸君へ	仁木 明人 6	● 編集後記	(F) 31
● 後輩諸君に物申す	秋山 邦雄 7		
● OB 公報発刊に寄せて	主将 秋山 高弘 8		
● 五十一年度WV活動記録	10		
● 一第十五回中四台W主管を終えて	実行委員長 原口 裕 11		
● その後の鳳翔山	(F) 14		

OB会報発刊にあたって

OB会会長

堺 原 直 毅

二同時に脈々息吹を続けている活動に感慨を憶えました。

小生にとって、ワングル活動は人生観の形成にかなり大きく寄与してくれたものと思っておりますし、現在も尚ひとつの支えになっていると考えています。

OB、OGとなられた皆様も過去の憶出の一言としてワングルをこらえることなく、今後のOB会の有り方、運営に御協力賜わられた存じます。

会員も増加し、会としての体制、運営、活動について検討すべき時期にきていると思われ、いろいろな構想、欲望にかられますが、自ずと制約も多く、地道な活動を積み上げてゆかねばなりません。

昨年のOB総会にて歴代主将の年度幹事設定を行い、情報の緊密化を意図し、又会費徴収により会計面の強化を打ち出しました。又ワングル活動の過去の記録が火事により消失したものがあり、記録、資料類の収集と編集を行うべく、過去の資料の提供をお願いしておりますので御協力下さいます様御願ひ致します。

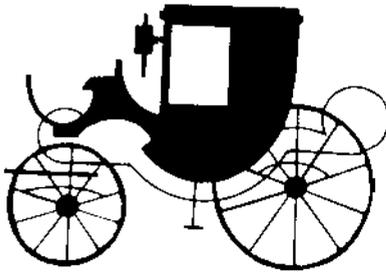
山口大学ワングルOB会報の発刊を祝うと共に投稿の機会に恵まれた事を光榮に存じます。山口大学ワングル部が創立して、早いもので十五年になります。うぶ声をあげた鳳陽寮は既になく、雑草と化しており、部員のみならず、たまり場であった経済学部学生ホールも同様となり、時の流れを感じずにはおれません。

高度経済成長の中でぬくぬくと過していたところに、例の石油バニックが急襲、うろたえ騒ぎ、安定成長路線の低成長時代への適応に模索を繰り返し、不安材料の多い毎日をおくっている昨今、OB諸氏に於ては日夜、研鑽の事と存じます。

一昨年久し振りのOB会に出席し、多数の参加を得、又 現役の元氣な活躍をみるにつけ、我々の小さな足跡の一步の重みを感じる

OB会員の間に新ぼくを囚り、且つ現役との交流を深め、より発展的な会だしたいと念じております。

皆様方の一層の御協力、御配慮を御願ひして会長あいさつにかえます。



お正月

米沢和彦

ことしの正月もまた、酒を飲んでのんびりと過ごした。サラリーマン諸氏と遊って、冬休みがたっぷりあるのはありがたい。顔わくば春までずっと冬休みであってほしいものだ。

正月といえば、ワンゲルでは必ず雪上訓練があった。この雪上訓練で正月気分はいっぺんに吹きとんでしまう。あの頃はうらめしかつたが、今となっては懐かしい。十種ヶ峰の山小屋での、あのもうもうたる煙のために目が痛くなったことを思い出す人も多かろう。

そのときの思い出をひとつ。細井さん「健脚をもって鳴らし、おそろくワンゲル史上、永遠に名をよどめる女性であらう」が、正月ということでは高級なウニを持参し、われわれにご馳走してくれた。皆さんでご飯のうえに少しづつ分けて食べようとした瞬間、石

松氏が叫んだ。

「検便とそっくりだ。」

ご飯のうえに少しずつのせられたウニは、まさか色といい、大きさといいい検便そっくりであった。さらに、

「検便をマッチ箱に入れるときの要領は……。」

と、身ぶり手ぶりよろしく石松氏は、検便についてのウンチクを傾け始めた。その迫真の語り口は、とうとう何人かが、ご飯のうえのウニに手をつけることができなかつたのである。そのときのぶ然とした細井さんの顔、今も忘れない。付言すれば、このときに限らず、石松氏は、食事中、下の話を^{しも}するのが得意であった。現在の便器メーカー勤務も、その延長かもしれぬ。

それはさておき、ワングルの想い出は、どういふわけか食物の想い出とつながっている、別にそうガツガツしていたわけでもあるまいが、いろいろな景色とともに、そのときどきのエサが目に浮かぶ。今ならとても食べたしろものではなからうが、当時は、結構おいしかったから不思議である。この粗食に耐えた経験は、私に、「何が

起ろうと、人間そう餓死するものではない」という奇妙な自信をもたらしている。夫婦ゲンカの際もしかり。私は女房におもむるに言った。

「いつ出て行ってもいいぞ。なにせ俺はワングルで四年間鍛えてあるからエサに困ることなんかないんだ。」

——とすれば、この五年間、わが家の力のバランスをなんとか崩さず保ってくれたのは、ワングルのおかげかもしれぬ。ありがたいことである。

(二月十日 九大研究室にて)



卒部生諸君へ

仁 人 明 人

まずはおめでとう。今日の卒部式を迎える人が何名いるかわかりませんが、あるきの記部員名簿によると一回生の時八人、二回生六人、三回生で九人となっており、昭和四十八年一月に卒部した私にとって、同年四月に入学した君達とは本来面識のないはずですが、三回生当時の部員名簿を見て、ひとりひとりの顔が想い浮かぶから不思議なものです。一年当時から在部した人と、多分全員と鎌成山行を伴にし、なかには四年間一諸君在部した私の仲間とよりも数多く一諸君山に行つた人もいるようです。

四年間、あるいはそれよりも短かかった人もあるでしょうが、本当に御苦労様。これから新しい社会でそれぞれ活躍される事と思っておりますが在部時代に培われたひとつのヒークをめざしての、色々な意

味での日常トレーニング、自己への厳しさ、他者への思いやり等を忘れる事なく頑張っていただきだと思います。

あつきのき十二号を拝見しますと、文明君の先輩の鍛え方が足りないという様な意見が載っていますが、社会のひとつの流れとして仕方ない事だ、思います。人間の親切心が薄れつつあるという事かもしれません。これから社会に出れば、増々そういう傾向は強くなってくるでしょう。だから、自分で自分を鍛えるんだという意志を持って欲しいと思います。自分で色々なものに休当りして、どうしても越えられないカベにつき当たった時、先輩が役立つものだと思います。人から与えられるのを待つのではなく、まず自分から求める事です。

長々と述べましたが、最後に卒部生皆様の今後の御健康とYUWVの御発展を祈って私のメッセージを終わります。仕事の都合とはいえ、同じ釜のメシを食った皆様の追コンに参上できなく申し訳なく思っています。

一月十四日

後輩諸君へ物申す

秋 山 郁 雄

昨秋のOB会で現役の活動状況を聞き感じたことを少々述べておきたいと思います。

第一印象として感じたことは、我々の活動していた時期のやり方なり、あるいはスケジュールが殆んどそっくりそのままと言って良い形で残っているということです。

我々の活動時期は、全国の大学にWV部が続々と誕生していた時期であり、当部も小生が入部した時は誕生後一年という時期で歴史も伝統もなく、先輩も新入部員もキャリブの面では同レベルであり、これから部を作りあげると言う時期でした。従って諸事自由な発想で色々なアイデアを出し、又他大学の部誌等を参考にして活動形

態を決めていました。

そして年間スケジュールが決定されてゆく訳ですが、その中には常に体育サークル的活動と文化サークル的活動の比重の置き方に部員それぞれの意見が百出するといった状況でした。

以上のような経過で生まれた色々な活動形態が現在もそっくりそのままに近い形で残っていることを聞き、その形態を作り決めてきた時代の一員としては、後輩諸君にも認められ続けているという安心感を抱くと同時に、いささかの物足りなさを禁じ得なかった次第です。自然を相手に対話し、体を鍛えるサークルの性格から、もっと自由に奔放な活動形態の創出も、伝統に逆らうものでも傷つけるものでもない、むしろ自由な考えで中四国のWVをリードして欲しいと私個人念じています。むしろ「形態」が残るよりも、従来のやり方にとらわれないという「考え方」が残ってゆく方が望ましい。

現役諸君の活動状況報告の一部だけを聞いての感想で、誤解している点もあらうかと思いますが、その点はお許し下さい。

注 仁木氏の文章は、本年度追コンに送られたメッセージをそのまま、使用させていただき、秋山氏の一文は、編集者あての手紙からその一部を使用させていただいたものであり、表題も勝手ながら編集者によるものです。

OB会報発刊に寄せて

主 将
秋 山 高 弘

OB会報の創刊にあたり、心からお慶び申し上げます。

昨年秋季は山口に於て、第二回OB総会も開かれ、こゝでやっとOB会も芽が出始めたなあという気がしています。まだまだ活動も不十分な状態の中で、せっかくなうしてOB会報が発刊されたので、すから、これからも末長く発刊され続け、OB相互の親睦の場となりますと同時に、OBと現役部員とをつなぐ掛け橋ともなりますよう期待しています。

我々現役部員にとりましては、OBと言ってもせいせい2/3年

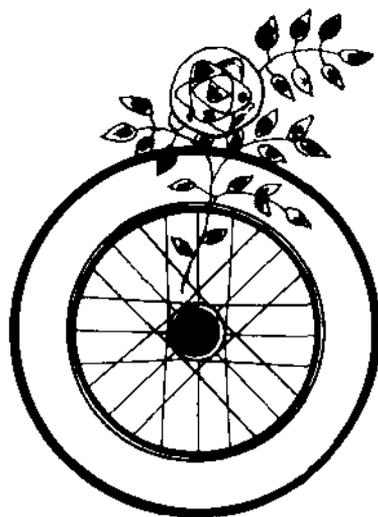
前の方が知りませんし、どうしてもそれ以前の先春とは練習になりがらです。これはやはり今までOB諸氏と接触する機会が無かったからにはかなりませんのでこれを機に、今後はOB総会への部員の出席とか、OBにも参加していただける行事の企画など、こちらの方からどんどんOB諸氏に接触していかねばと思っています。

そしてここでOBの方々についてお願いしておきたいのですが、山口におられる方はもちろん、遠方におられるOBの方々も、来山された際には、ごめんどうでも部室に顔を見せていただきたいと思えます。現役部員にとっては先輩から以前のワングルの話、山の話、その他おもしろいエピソードなど聞くことが、何ともまして楽しいことであり、やはりOBと話が出来、意見を交換することが出来ることこそ、OBを身近に感じ、山口大学ワングルフォーゲル部としての一体感を感じる早道ではないでしょうか。今まで離ればなれたOB、そして現役の部員の全員が、この一体感を同時に持つことが出来たらどんなに素晴らしいことでしょう。それがOB総会やO

B会報という手段を通して一歩一歩実現に向かっているのではない
でしょうか。

今後のOB会の団結、御発展を部員一同心よりお祈りすると同時
に、このOB会報等を利用して、御指導、御叱責を賜ることができ
ればと思います。

次頁に現在の活動状況を示しておきます。



51年度 W V 活動記録

月	日	行事	場所	参考
4月	18日	公開ハイキング	鳳翩山	
	21日	ワングル説明会	教養部	
	24, 25日	新歓登山	鳳翩山	
5月	1, 2, 3日	県内合ワソ	鳳翩, 男宿	山大, 山口女子大学主管
	16日	80km耐久徒歩	萩～宇部	工学部WV部主催
6月	12, 13日	リーダー養成	山口周辺の山々	2年生の読図力養成
	中旬～下旬	第1次, 第2次錬成	山口周辺の山々	
7月	上旬	バーワソ	徳佐, 青海島	
	22, 23, 24日	ソレ合宿	山口大学合宿所	
	24日～8月5日	夏合宿	南北アルプス, 北海道	
9月	上旬	中四合Wコース調査 その他準備		
11月	上旬	ソソ合W	秋吉台周辺の山々	
	6, 7日	公開オリエンテーリング	秋吉台	
	20～24日	中四合ワソ	秋吉台周辺の山々	山口大学主管 集中地 秋吉台
12月	12日	学長杯駅伝大会	山口大学	
	19日	ワングル杯マラソン大会	平川マラソンコース	
	25, 26日	忘年ワンデリング	鳳翩山	
1月	14日	卒部式及び 追出しコンパ	太陽堂旅館	
1月下旬～2月上旬		錬成, 雪上訓練	鳳翩, 十種ヶ峰	
3月	下旬	春合宿	沖永良部, 脊梁, 祖母嶺, 三嶺, 比良	

「第十五回中四合W主管」を終えて

実行委員長

原 口

裕

開催期間 昭和五十一年十一月二〇日(土)～二十四日(水)

コース

(山城) 東方便山・男括・鯨ヶ岳・桂木山・花尾山

集 中 地 美祿郡秋吉台国定公園

主 管 山口大学本部工学部ワンダーフォーゲル部

協 賛 山口女子大学・宇部短期大学ワンダーフォーゲル部

後 援 山口県教育委員会

第十五回中四合同ワンデリングが、ここ山口秋吉の山野に展開された。キャンブファイヤーの灯が秋吉のカルストに燃え、秋吉の空をこがした。十八カ月にわたる我々の苦勞のすべてが、このファイ

ヤーの灯とも一瞬にして燃えつきてしまった。そこはただほうせんと立ちすくす部員の姿があった。

思いおこせば……

五十年五月二十五日

本部工学部合同部会にて主管の意図を確認

六月 五日

本部工学部別に準備委員会を構成

九月

第十五回中四合ワン実行委員会発足

同時に企画室を構成(実行委員二十六名、企画委員五名)

十一月二十五日

第十四回中四合ワン終了後、次期主管校に決定される。

建設的中四合ワンを打ち出す

。主管者としての意識の向上

。地区の他大学との協調

従来の中四の問題点を見つめ直そう

・中四大学の相互理解

五十一年二月

「雪・期日」について、各大学へ問い合わせ

コース案提出、その選定

三月十三日・十五日

第一回コース調査（地区四大学合同による）

五月

コース・集中地の決定（机上）

招待校の決定

パンフ「あきよし」の企画開始（中四相互理解を旨とする）

五月三十日

中四連絡会 合ワンの中間報告

六月

各校の装備状況調査

参加希望学年人員調査

七月十日

第一次予算見積り開張

八月

見積り検討、第二回コース調査

九月三日・五日

調査ワンデリング（地区四大学合同による）

コース・集中地、見積り、参加人員（人数制限）の最終検討

十月十日・十四日

フレ合ワンの（地区四大学合同による）

参加人員、参加費報告（十月二十日）

記念品、要項の作成、トランシット・バーテスト

十一月六日

ノブイヤーラスト

十日

（上・日をすべて利用し）
（コース・集中地の整備）

各大学への要項配布

十三・十四日

ファイヤブレスの整備、枕木運搬・組立て

トランシーバー最終テスト、書類提出

すべてはGO

二〇日～二十四日

第十五回中四合同ワンデリング

参加校中四、二十八大学、参加人数三百五十六名、参加費総額

百四十二万四千円。一年半という長い歳月にわたる部員一人一人の

苦勞が、努力が、ここについ実を結んだ。

中四、中四で明け暮れた毎日。コース調査・整備その他の準備で

費されたほとんどの土曜・日曜。たしかに主管校の負担軽減といっ

ても各人においては多大なものがあったことは事実である。毎年回

題になるのがこの負担による内部分裂である。私自身非常に懸念し

ていたのだが、幸いにもそれも私の取り越し苦勞で終わった。まさ

の
策 討
対 検
故 終
事 最

に部員全員の方によってやり終えた第十五回中四合同ワンデリングであった。

OB、学校当局、県教育委員会その他地元関係者の方々の深い理解

と協力によってやり終えた合同ワンデリングであった。

中四を終え三ヶ月、「ついにやり終えた」という満足感と自信へと

と変ほうし、今我々は中四回へより大きくはばたかんとしている。

そして中四合同ワンデリングは、もう第十六回に向かって動いている。



その後の鳳翽山

山大ワングル最愛の山、鳳翽山の現況をお知らせします。

ニッ堂からの登山路は、一般ハイカーにも最も好評のようで、相変らずりっぱな道ですが、近年ニッ堂部落に通ずる車道が出来て取り付き付近は相当の変化を見せています。しかも、このコースには

Y・G・Gとかによるやたらにけばけはしい標識（自然を大切になどという文句と品のない挿し絵があり、それがことごとく原色で描いてある）が立ち並び、自然保護の面では全く逆効果と思うのですが、一応は善意のつもりでやったのでしょうから取り除く訳にもゆかず、ともかく標識にはゲンナリしています。

さらには、坂堂峠付近にまで裏側から車道が伸びてきており、

鳳翽付近にダムが出来るとかで、大化畑下の四軒にすでは立ちのきも終了してダンフが行き交っています。このあたりも一、二年で相当に様相を変えそうな状況であります。

車道と言えば、二年前に中尾一地藏峠一高津の車道が完成し、鳳翽から俯瞰する眺望の中の山肌の工事の跡は痛々しい程です。一層付近は、晴天の日耀ともなれば相変らず家族連れなどでにぎわっており、このあたりが唯一の救いと言えてでしょう。西鳳翽の方は、ケレビ塔完成以来魅力が失われ、さらには伐材も進んで、我が部でも木登頂の名がある程です。このような状態ですので東西鳳翽縦走は全く味気ないものとなり、このコースを試みるのも今では錬成時のワングル部員のみと言っても過言ではありません。（地藏峠一西鳳翽はほとんど車道）

また、坂堂峠由の登山道もワングル以外には使用する人もなく、今はブッシュ状態で錬成時には現役部員達も相当に悩まされているようです。ニッ堂一山頂一地藏峠の道以外もほぼ同様の状態を呈し

ています。

このように、車道の完成、ダム建設計画などによって、鳳雛を取り巻く環境にも多くの変化が見られ、二ツ堂コース以外は次第に完全なブッシュと化し、忘れ去られそうです。恐らくあと五年もすれば、東鳳雛山頂付近を除いて、他は今昔の感に耐えぬということになるのではないでしょうか。

(F)



座談会「OBを語る」

出席 A 三年 主持

B // 副将

C 二年 留年工学部生

D // 美人の女子トレ

E 一年 酒乱気味の伊達男

F // 大食漢の色男

G 四年 OB公事務局長

司会 // 東滝山荘六代目主

司会 OB会報を発行するために原稿を依頼したのですが、どうも集まりが悪く、このような座談会をもって原稿の穴埋めをしようと思っただけです。一応OBを語るといふことで、

現役側の一方的な話になるとは思いますが、現役のOBに対する
率直な意見を聞かせてもらいたいと思います。

◎ 現役部員から見たOB ◎

司会 まず現役部員から見たOBについてですが、どうですか。

B やはり遠い存在ですね。コンパ等によく来られて知っている

OBは、「なつかしい」と思うのですが、大部分のOBはまるで面
識もないし、遠い存在という感じですよ。

E 同感です。特に僕はまだ一年ですし、OBと言えば昨年卒業

された方くらいしか思いあたりません。何と云っても印象に残っ
ている方は、絶対に夏合宿の時差し入れをして下さった人達です。
あれは嬉しかったです。

F それに合宿本部に来られた人。

G やはり、どうしてもコンパに来られるとか差し入れをして下
さるとか年賀状が届くようなOBに限られるのはしかたないね。

F 年賀状で思い出したんですが、今年の年賀状みて嬉しいんで
すけど顔が全くわからない。

G まあそこら辺は、世代の差と言うか、クラブは四年周期だか
ら無理ないね。

C そうですね。僕にしたって一年の頃の四年生かすでOBな
訳だけど、そこまでは。だから自分にとってOBなんてその四
年生までですね。

G 「OBなんて」と言うことはないだろう。

そこ、削除！（笑）

司会 結局、現状ではOB会そのものが現役との交流の場を持ち得
ないために、一年次の四年生までOBが限定されるということ
になりますか。A君などOBと言うと何を連想しますか。

A うーん。連想ねえ、結局連想せんのですよ。もうワンゲル創
部以来十何年でしょう。だから相当数のOBがおられる訳だけど、
それを言っさり意識することはないですね。まあ僕の場合、

昨年のOB会に出席する機会を得て、それだけ近い感じはするけど……。

G コンバ、OB会などの機会が少ないということもあるから。

司会 DさんなんかOBについてどう思う？

D 年賀状の件、さっき出ていましたけど、あの遭難された方、

Uさんでしたね。あの人の年賀状見て、わぁーすごいことやってるなあって思ったんです。遭難の事は恐わかったけど、終わりに

君らも頑張るよと書いてあって、ただその一言がOBの言葉であるだけに効いたという感じでした。頑張らないうけんという

風だ……。

F へえ、そんな人いたの。

E 俺 初耳。

D 私なんか、じゃあ、よく知っている方じゃないかしら。Mさん、Wさん、Nさん、Tさん、Kさん、Mさん、Mさん。みんなコンパで知った人。それに差し入れて下さったIさん。

司会 今、Uさんのことが出ましたが、そんな風な自分にとって印象的だった先輩の思い出など、C君どうです。

C 僕はやっぱり岩本さんですね。(笑)あの人、卒業せず、部会でも苦しめられましたから。

G あの人まだOBじゃないよ。もう部員でもないけど……。

(笑)

H 僕はKさん。

司会 どうもこれでは話になりませんね。先輩のエピソードなんかありませんか。

A エピソードと言われても困るんですが、印象的な人と言っても、その人がまだ部員としておられた頃に受けてる影響があって、それが残っている訳でしょう。いわゆるOBと現役部員の連体感はどうしても稀薄ですから、C君の言うように岩本さんでなことになっても無理ないですよ。(全員うなづく)僕にしたってIさんなんか懐しいけど、Iさんも僕が一年の時の四年でしょう。

やはり四年の噂は大きいですね。追ッテしても、どうしても未
る気になるのは四年の時の一年生までですよ。ああ、あのつら
卒部するなら行ってやろうという感じ……

B そりだね。

G それにしては今年も少なかったけど（笑）

◎OBに要望すること◎

司会 どうも四年の壁は厚いようです。そのためにOB会の充実
が望まれる訳ですが、ここで話題を変えてOBに要望したこと
などについて議論して欲しいと思います。

A まあ、具体的で、又正直言うて、現物的なお金、資金援助と

いうことになりますね。装備の面でも大きな負担ですし、あつた
らなあと思うのけ正直なところですよ。又一方、追ッテ、合宿本部
などに参加してもらって精神的な面でのバックアップももっと欲
しいと思います。それらを通じて、ワンゲルの一体感を序々にで

はあらにせよ発展させてゆきたいというところですよ。

G お金の話が出たけど、出すOB側によってみれば「生活」が

あつたし、やれ装備が不足して……から金出してくれ、ではO

Bも納得しないと思う。これらの現況を充分伝え、まあ新しい企

画を行なうために金が要するという形でないと無理だと思うね。一

方通行じゃ、こと金に関するところだから色々な困難もあるだろう

し……

A もちろん、その点は僕も思ってますが……

E 何と言っても、妻があり子がある！

F お前、分かった風な口きくじ。ないか（笑）

C お金のことですけど、今までOB会費とかなかった訳でしょ

う。OBにしてみれば自分達が現役の頃、そんな援助を受けても

ないのは、OBになったと思つたら、UB会費、資金援助じゃ当

然反発とまでは行かなくても、どこか釈然としないものが残ると

思います……

注・現在、OB会費はOB会のみのために使用し、現役への援助はありません。

A　まあ、今のワングルを考える時、OBの力によるものか大きい訳ですよ、そこには脈々と受け継がれ、発展していったものが当然ある訳で、ともかくそんな事を考えると、創部期のOBの努力によって今のワングルがあると云っていい訳です。それと同様、今やっと百ちつつあるOB会の根をここで絶やすようなことがあってはいけない。そこら辺はOBにして、現役にして共通のものだと思つたら、そのことを示すことによってOB側を理解してもらえるようにこちらで努力する必要があるだろうし、例えばOB会報ですよ、それらを通じてOBとの関係を密にすればお金のこともすんなり行くんじゃないですか。

B　全くね。ともかく重要なことは、OB会にして、OB会報にして地道に続けて行くことでしょう。創部期のワングルがそうであつたように、最初はどうな形であれ、是が非でも続けることで

すよ。

G　そして、その、こちら側の微々たる努力にOBの方も振り向いて欲しい。例えば、昨年十月のOB会で会報の話が出ただけれど、原稿を送ってこられたOBがわずか一名というのは淋しかった。僕なんか、それで原稿送られたYさんにごく感激してしまつた。時期が悪かつたからかも知れないけれど……。

E　妻があり子があり、生活があるんですよ。

B　全くね。

この後、OB諸氏の生活とワングルの位置についてあれこれ話が及ぶが、結局E君の言葉に代弁された感じである。

A　F君が話してないけど……

F　やはり遠い感じで話が出きません。でもあの時は、先輩は本当にありがたひと思つたですよ。

A　何時時？

F　差し入れ。(笑)

B 一年生にとつてみれば、合宿アノローチ沿線のOBには差し入れを大いに期待することにならなぬ。

C 何も一年だけじゃないでしよう。(笑)

◎OB会の在り方◎

司会 本来この事はOBの方々に話してもらわなくてはいけない訳ですが、OBの方がおられませんので、ひいてはOBとなる現役のザックパフな話を聞きたいと思ひます。

G その前に簡単にOB会の現況を報告しておく、昨年、岡田さんの岩本さんの多大な努力によってOB会が発足し、昨年十月に第二回を迎えているけど、会そのものも「なつかしさ」あふれる旧交を暖めるといった感が強く、もちろんそれは当然だけれど、会則云々までには至っておらず参加者も1/3弱。

司会 その現状をふまえて、これからどのようにOB会を発展させてゆくか、あるいはこちら側からの働きかけに対する反応の弱さ

をどう克服してゆくか、について語ってもらいたい訳です。

A また生活の話になるんですが、まあOBの方々には仕事がある、そんな中でたまの連休に山口まで来るっていうのは相当の負担だと思うんです。そういう意味で、参加人数云々ではなく、さつきB君が言ったように会を毎年開くことが重大だと思ひますね。OBにも都合があるだろうから、いつでも参加出来るように、つまり今年ためなら来年という風に、定期的なOB会の「場」を確保することが当面必要でしょう。

G さっきと同じような議論になるけれど、現役、OBの意志疎通をその場でやること、つまり、段階的にはまず「場」が与えられて、現役にしてみれば、その場を良い意味で利用して行くという形が望ましいと思ひね。

B そうですね。OB会は今のところ事務局がキーステーションで運営されている訳でしょう。そのキーステーションを現役側として、事務局のみでなくクラブ全体に持つて行くことによつて

OBと現役の接点にしたい訳です。もちろん、OBの方々の旧交を暖める場としての要素も必要ですが……。

A 今、ふと思ったんですが、女のOBの方これは一寸とむずかしいでしょうね。もう恐らく子供があるだろうし、第一ダンナが許さない。そんな人にとっては、山口は遠きに在りて思うものという感じでしよう。

G OB会出席を子供さんの発熱であきらめた方もあるし、せめて日帰り出来る場所となれば、やはり支部の充実しかないだろう。現在、M氏の努力で東京支部が出来てるけど、大阪あたりにも欲しいね。まあM氏のようなワンゲルの愛し方が尋常でない人の出現が大阪に期待される訳だけど……。

B 支部の話とは別ですけど、OBと現役をタテの関係とすれば、OB内のヨコの関係ももっと強くあって欲しいと思います。そうして、横の関係を強めることで、一寸と厳しく言えば、現在そう強いとは思われないOBのOBとしての意識を高めて行くこと

も必要だと思う訳です。最終的には、運営それ自体もOB会だけでやって行く位の意識の向上が要求されていると思います。

G 確かに生活のことは考えないといけないんだろうけど、B君の言う意識の欠如は原稿の件でも明らかだし、受動的であるのは否めない。せめてもう少しという気はするし、まあ自分もすぐにOBとなる訳だけど、まずは自分からその点を胆に命じとく必要はあるね。

E と、言った人がじきに言い出すんですよ、きつと。「俺には妻があり子がある」って。

G アホッ(笑)

B まあ、それはそれとして、現役部員がOBになることを胆に命じておくこと、これは必要だと思いますよ。今まで支部の事、横の関係の強化なんて言ってきたけど、僕らにしてみれば、そっちの方が重大だし、OB会にしても、繰り返すようですが、まずは続けることによって、そこから生まれ出るものを期待する方が

順当でしょう。いわば、土壌作りですね。

G まあ、すでに為されている努力、東京支部のようなものは、

これからも充実して欲しいと思うのにもちろんだがね。

休息・ウィスキーのグラスが傾く中、皆んな気取った言い方する

なあ、というC君の指摘あり。確かに不慣れのせいもあり、少々

肩がこります。

◎OB会報について◎

司会 大分酔いも回って来たようですが、ここで最後に、会報の企

画について良い意見があれば……。(二号以下の参考にしたい

と思います……。

G その前に一寸と言っておきたいんですがねえ。まあ、この

会報はOBより要望があって作る事になった訳だけど、フタを

開けてみると寄稿者がわずかに一人。あの席の要望を、まさか酒

の上での戯言とは思いたくないけど、これじゃ少しは疑ってみた

くもなる！OB会報はOBが作る訳だよ、本来。原稿が遅れるの

はワングルの常だけど、それにしても一人とは！(G氏少々酔い

がひどい)今回は第一号だから仕方ないけど次からは期待したい

もんだ。妻がなんだ、子がなんだ、我等ワングラー！

司会 まあまあ、それで誰かありませんか。

D ともなくも、原稿を集めることでしよう。企画はそれからで

すよ。

A そう。OBからの意見も必要だし……。枚数なんか一人、

二・三枚が適当でしょうね。

G それでも書いてくれんからなあ。

(G氏。ワングルボルカ歌い出す 一同無視。)

司会 要はまず原稿を書いてもらうことが、企画云々の前に必要の

ようです。本来は、もっと酔ってもらって(G氏は別ですが)例

えば「OB会なんかクソくらえ！」などという奇抜な意見が欲し

かったのですが、どちらかと言うと優等生の感じの座談会になっ

たようです。ともかく現役側としては言いたい放題の感もありま
す。これにOBからの反論、意見があれば、今日の会は成功と言
って良いでしょう。そろそろ時間です。今日は試験前の多忙中あ
りがとうございました。

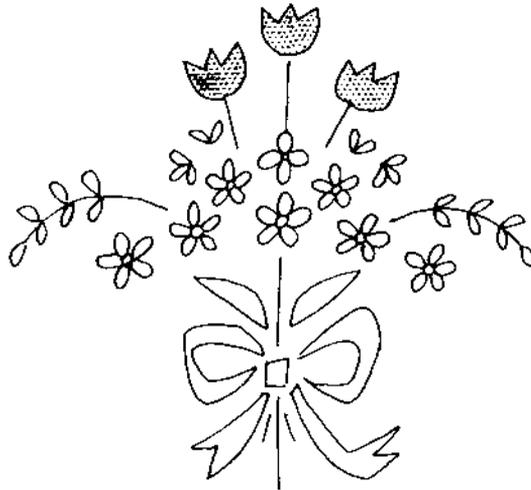
二月七日 東滝山荘にて 文責 古谷

(尚、東京支部連絡先は左記の通り)

川口市飯塚一ノ三ノ二

通産省川口寮 215

松 永 烈 氏



5 1 年 度 O B 会 会 計 報 告

月 日	摘 要	収 入 金 額	支 払 金 額
	前年度残高	17,430	
7月 6日	O B 名簿コピー		2,000
12月	切 手		2,300
24日	カンパ	3,000	
9月 6日	往復ハガキ(40×100)		4,000
	その印刷代		1,000
10月10日	第2回O B 会 カンパ	63,000	
12月13日	封 筒		400
14日	事務局印		1,450
18日	スタンプ台		500
	切 手		4,000
2月10日	10日現在のO B 会費納入及びカンパ	23,520	
	計	106,950	15,650

注 差引雑高 91,300

この時点では、会報印刷代は支払われておりません。

報告 事務局 長

編集後記



OB会報第一号をお送りします。御希望がありませんでしたので勝手ながら「鳳雛」という名にしました。山大WV最愛の山でもありOB会報の名にふさわしいと思っています。

第一号は、原稿が思うように集まらず不本意な形で完成しましたが、次期事務局長の秋山君も張り切っていますので寄稿、宜しくお願います。完成をもっと早くする予定でしたが、私事など種々の理由により遅れてしまいました。お詫びします。

編集 古谷真之助

協力 WV部々員一同

発行 YUWV・OB会

(本部)

事務局住所

山口市水の上町三ノ五 小田方